

# 1/19 土曜日 16:00 @鹿児島中央駅群像広場

# #鹿児島中央

# 大作戦



立憲民主党  
The Constitutional Democratic Party of Japan

弁士 川内博史

鹿児島県議会議員  
やなぎ誠子

県連政策委員長  
安楽ひでみ

枝野幸男

私達は、なぜ「今」を生きているのでしょうか？  
それは、今のこのささやかな幸せや、自由や、平和を次の時代につないでゆく為ではないのでしょうか？

だから、私達大人は、少しでもより良い世の中にしてゆく為に、子ども達に

「嘘をついたら駄目だよ」とか「弱いもの苛めをしちゃ駄目だよ」「自分さえよければでは駄目だよ」「ひとり占めは駄目だよ」とか教えています。

しかし、今、政治・行政の暴走は「それはいくら何でも」という目に余る状況なのではないのでしょうか。

次々と明らかになる資料や書類の隠蔽・改竄。

臨時国会、たった1ヶ月半の会期中で政府・与党は3本の法律を強行採決しました。

- ・日本人労働者の賃金を下押しすることになるであろう「外国人労働者・入管法」
- ・世界的に見ても珍しい「飲める水道」を担保できなくなってしまうかもしれない「水道事業民営化法」
- ・日本の海を守ってきた漁業者から漁業権を取り上げる「漁業法」

これらはどれも、私達の社会の安心・安全を担保してきたものを犠牲にして、一部の人々や企業の「お金儲け」の手段にしてしまおうというものです。

あまりにも浅ましい法律だから、議論されると困るから、強行採決したのです。

その一方で政府は、沖縄県民の意志を踏みにじり、辺野古に土砂を投入し、トランプ大統領の言うがままに、米国製の武器や装備を6兆円あまり次々と購入するという、信じられない米国への追従を続けています。

中国や北朝鮮に対しては、自ら軍事的緊張を高めながら、北方領土問題に関しては、一方的にプーチン大統領に譲歩しようとしているなど、外交や安全保障面についても、筋が通らないことばかりです。

今年の10月には、消費税増税が予定されています。この対策も「対策が細かすぎて分らない」というのが正直なところではないでしょうか。こんな訳の分らないことをするのなら、消費税増税はやめればよいのです。

「憲法に自衛隊を明記するだけだ。何も変わらない」と言うのであれば、憲法改

正の必要などないのです。

嘘と、ゴマカシと隠蔽の政治・行政は、もうたくさんです。

偉い政治家や高級官僚であればあるほど、平気で嘘をつき、暴言を吐き、失言も責任を取らず、私達国民をペテンにかけています。

選挙に勝ちさえすれば、国民の疑問や不信に何も答えず、隠蔽することが許されるのでしょうか。

子ども達に「してはならない」と教えていることを、政治や行政のリーダー達が平気でしている現在の政治・行政の状況。

こんな恥かしい政治・行政は変えなければなりません。

偉い人の言葉にはウソがある。

だから、私達の未来は、私達の社会は、私達自身の国のことは、私達自身が決めなければならないのです。

誰かに決めてもらうこともないし、強行採決で一部の人達が決めたことを、無理矢理押し付けられることなんか、あっていい筈がないのです。

「自分達の未来は自分達で決める」

それこそが「民主主義」。

本来、地球には全ての人々を包み込む豊かさがあります。

人生は、自由で豊かで楽しい筈なのに「自分さえ良ければ」という貪欲で心を支配された「悪いエリート達」が、社会を分断し、格差と貧困、増悪と悲劇をもたらし、そして安売法により流血さえもたらそうとしています。

機会や文明は便利な一方で、貧富の差を拡げ格差を生み出してもいます。

「今だけ、金だけ、自分だけ」という頭デッカチの「悪いエリート達」は優しさを無くし「自己責任」という心の通わない思想で人間性を失ってしまい、豊かな筈の人間関係を殺伐としたものになっています。

「金銭欲」や「出世欲」「権力欲」に目が眩んだ人々は、血も涙も無く、あるのは「欲」だけです。

「目には目を」では、世界は盲目になるだけです。

今こそ、私達は「悪いエリート達」に教えるべき時が来ています。

「今も大事、お金も大事、自分も大事」そして「経済成長も大事」だけど、それは奪い合う政治や、奪い合う経済ではなく、分かち合う政治、分かち合う経済

によってこそ実現されるのだ、ということ。

奪い合えば足りなくなるけれども、分かち合えば余るのです。

「私には夢があります」

戦争に使うお金や、税金の無駄使い、高級官僚の天下りに使われるお金、富裕層や巨大企業がタックスヘブンを隠すお金を、格差や貧困、環境問題、年金・医療・介護・障がい者福祉・子育て・教育、そして皆の給料の賃上げに回せば、この世の中は、子ども達の未来は、どんなに素晴らしい世の中・未来になるでしょう。それこそが、成長の源なのです。

**皆さん、安心して下さい。**

**私達は、必ず勝利します。**

**なぜなら、私達には「平和な民主主義社会を創る」という光輝く大義の旗があるからです。**

それは、全ての人々が頼りにする光なのです。

たくさんの先人達が、「悪いエリート達」による「悪い政治や行政」に対して、民主主義や自由を求めて、生きる証を求めて闘い勝利してきた歴史があるように、私達もまた必ず勝利します。

貪欲が招いた不幸も、

人として生きる不安も、

私達が勝利する時、「希望」に変わるのです。

そして、私達は子ども達や孫達に胸を張って、こう言うのです。

「私達は、お金もないし、ひとりひとは力もない。だけど、お互いに助け合うことは、私達の得意技だ。そして、その助け合いこそが民主主義の力、自由に生きる力になるのだよ」と教えることができるのです。

私は、「街角に立ち続ける政治家」として、これまでも、そして、これからも命尽きるまで、皆様に寄り添い「あるべき政治の姿」を実現することに執念を燃やし、行動してゆくことを誓います。

皆様と共に、力を合わせ助け合い、自由に希望に満ちた民主主義社会を作ることこそが「街角に立つ川内博史」の政治家としての誇りだからです。

衆議院議員 川内博史

